

3. 北海道の港町の歩み【根室港・稚内港・留萌港・網走港・紋別港・十勝港】

西暦	年号	根室港の歩み	稚内港の歩み	留萌港の歩み	網走港の歩み	紋別港の歩み	十勝港（広尾港）の歩み
1596-1615	慶長年間			ルルモッペ場所が商い場として開かれたのではないかと、と推定される▼			
1640	寛永17						この年、戸梶(トカチ)から亀田にかけ津波が来襲して破船、死者多数、東蝦夷地における津波災害の初見である※5
1685	貞享2		この年、宗谷場所が開設される★			この年、松前藩宗谷場所が開設される(紋別漁場は宗谷場所に属す)※4	
1700	元禄13						この年、元禄御国絵図にトマリ初見※5
1713	正徳3						この年、「和漢三才絵図」の「蝦夷図」にトマリ(現在の十勝港)の地名が掲載される※5
1754	宝暦4	この年、瑤瑤海峡の航路を開き、根室のノツカマップに運上屋を開く○					
1781-89	天明年間			ルルモッペ場所とマンケ場所の境界移動で争い起きる▼			
1783	天明3						この年、十勝場所を松前藩が支配★
1785	天明5				この年、幕府普請役5人を派遣し、初めて東西エゾ地を調査※1		
1786	天明6			この年、留萌に厳島神社が創立。留萌駅通を通行屋と称して設立▼			
1790	寛政2	この年、現在の根室市街地付近に運上屋が置かれる○				この年、宗谷場所を3分割し樺太、斜里場所が独立し、紋別番屋が開設される★	
1792	寛政4	10.20 ロシア最初の遣日使節アダム・ラクスマン一行が交易を求めて根室に入港する★○					
1798	寛政10	7.27 近藤重蔵、最上徳内らと択捉島に渡り「大日本恵登呂府」の標柱を建てる◆			この年、幕府勘定吟味役三橋成方、西エゾ地を巡察して宗谷に至り、さらに属僚を派遣し斜里までの北見沿岸を調査する(随行の著「蝦夷日記」や沿岸写生図により場所内の部落戸数がはじめて明らかに)※1		
1799	寛政11						この年、東蝦夷地が幕府の仮直轄地となり、ピロウ場所をトカチ場所と改称※6
1800	寛政12						この年、幕府が類似に船塀場(ふなたてば:造船所)を設ける※5、伊能忠敬が蝦夷地の海岸線を実測、広尾に数日滞在する※5
1801	享和元					この年、磯谷則吉が紋別湾を調査「蝦夷道中記」で発表する※4	
1806	文化3	この年、高田屋嘉兵衛が金刀比羅神社を建立する○					
1807	文化4			この年、ルルモッペ場所を含む西蝦夷地が幕府の直轄となる。幕府小人目付田草川伝次郎と、小普請方近藤重蔵がルルモッペ場所の沿岸を巡行する▼	3.22 幕府、西蝦夷地をも収め、全島直轄領とする*	この年、蝦夷地全島幕府の直轄となる※3	
1816	文化13	この年、根室場所が高田屋嘉兵衛ら4名の共同請負となる○					
1821	文政4			この年、ルルモッペ場所を含む西蝦夷地が再び松前藩の支配となる。松前藩士松田伝十郎がルルモッペ場所の沿岸を巡視する▼		この年、蝦夷地松前藩に復領※3	
1833	天保4	4.- ユルリ島の漁獲権を巡ってアッケシ場所とネモロ場所の間に紛争が起きる◆					

3. 北海道の港町の歩み【根室港・稚内港・留萌港・網走港・紋別港・十勝港】

西暦	年号	根室港の歩み	稚内港の歩み	留萌港の歩み	網走港の歩み	紋別港の歩み	十勝港（広尾港）の歩み
1845	弘化2	3.2 松浦武四郎が探検のため、はじめて東蝦夷地に入る◆					
1846	弘化3			この年、松浦武四郎、ルルモッペ場所の沿岸を巡察する▼	この年、松浦武四郎、樺太探検の帰途、宗谷より知床岬の間を往復する※1	この年、松浦武四郎が紋別湾を調査「再航蝦夷日誌」で天然の船懸り紋別湾を紹介する※4	
1854	嘉永7 安政元	この年、藤野嘉兵衛が花咲など4カ所に昆布場を再開し、本格的な採取に当る○					
1855	安政2			2.- ルルモッペ場所を含む西蝦夷地が再び幕府の直轄となる(同年3月には秋田藩の警備地となり、安政6年には庄内藩の領地となる)▼		この年、西蝦夷地神威岬からオホーツク海岸知床岬までと樺太は、秋田藩の警備持場となる※3	この年、東蝦夷地が仙台藩の警備地となる※6
1856	安政3			この年、松浦武四郎、ルルモッペ場所の沿岸を調査する▼			この年、トカチ場所受持ちの海岸を深淺調査する※6
1858	安政5				この年、松浦武四郎、白糠より阿寒を経て網走山道を踏破する※1		
1859	安政6	この年、根室および国後・択捉(沙那を除く)を仙台藩の領地に給与し守衛開墾を命ずる○				この年、蝦夷地を奥羽6大藩に分割し、紋別は会津藩領となる※3	この年、仙台藩がトカチを領有し、広尾に陣屋を設ける※6
1865-68	慶応年間			ルルモッペとトママイは大漁場へと発展していく▼			
1866	慶応2			この年、ルルモッペ場所が箱館奉行の直轄となる★			
1868	明治元			この年、庄内藩が政変のため移住者を全員引き揚げる▼			
1869	明治2	10.2 松本十郎判官が移住民130名を率いて来住し、開拓使根室出張所を置く○ この年、根室～函館の海路が開かれる○		8.- ルルモッペを留萌と改称▼ 9.- 留萌地方は山口藩の支配となる▼	9.- 新政府、北見国を分領(網走・斜里郡を名古屋藩に賜う)*	この年、北見国紋別郡が誕生し、和歌山藩支配地となる★	この年、開拓使の手で十勝～函館を結ぶ海路を開く。十勝国を創設、7郡51村となる※6
1870	明治3	この年、柳田藤吉が自費で92名を移住させ、漁業に従事させる○				6.- 網走・斜里郡が名古屋藩から開拓使直轄となる※1	6.- 紋別郡を和歌山藩から開拓使直轄となる※1
1871	明治4	3.25 軍艦「春日」英船「セリフィア」沿岸測量のため来航◆		12.- 栖原家が漁業経営を始める★(開拓使から漁場持を命ぜられる▼)	7.15 松本十郎判官が北見国を巡察* この年、藤野伊兵衛が網走川にはじめて架橋*	この年、判官松本十郎が「北見州経験誌」で紋別港築設の論旨を発表する※4	
1872	明治5	6.20 弁天島灯台が点火○ 7.12 納沙布岬に灯台が設置○		この年、宗谷支庁留萌出張所(現留萌支庁)が設置▽	3.- 開拓使、北見国東部4郡の村名を定める8トヲフツ・ナヨロ・モコト・ニクリバケ・イチャニ・アバシリ・モヨロ・ノトロの8村。のち網走市の開基となる)*		
1873	明治6	9.- 榎本武揚が日高・十勝・釧路・根室を巡視○ この年、開拓使附属船2隻を定繋させ、航路の安全を守り、根室～函館、根室～千島間を往復。納沙布岬に灯標、弁天島に灯竿を設置○		2.- 宗谷支庁を留萌に移し、留萌支庁となる▼			9.- 榎本武揚が日高・十勝・釧路・根室を巡視※6 この年、アメリカ船がルベシベツに水を求め上陸。
1874	明治7	12.24 根室より浦河を経て苫小牧へ往復する郵便路線が開通◆	4.- 樺太・宗谷間渡船規則設定口 9.26 開拓使御雇B・S・ライマン稚内地方を乗馬で視察口	10.- 開拓使御雇B・S・ライマンが鉱山調査のため来村する▼			この年、開拓使御雇B・S・ライマンに十勝海岸を調査させる※6
1875	明治8		6.2 札幌本庁測量課、稚内宗谷地方沿岸測量開始口	6.- 大判官松本十郎が留萌地方の状況調査のため来庁する▼ 10.- 留萌川河口に村有志で仮橋を架ける(記念橋)▼	5.24 網走郡内の8村に漢字名をあてる(網走村となる)* 10.- 藤野伊兵衛が網走川の板橋を架け替える*	この年、モンベツ村から紋別村となる★	この年、開拓使は北海道海路の危険から500石積以上の日本型船の建造を禁止し、西洋型船の建造を布達※6
1876	明治9	8.- 根室支庁、根室港海浜に鮭鱺製所を設置○ 11.- 根室・野付・目梨・標津各郡の漁場を測量◆	この頃、稚内の戸数十余戸口	9.- 留萌郡を礼受村・留萌村・三泊村・鬼鹿村・天登雁村の5村に区轄する▼			

3. 北海道の港町の歩み【根室港・稚内港・留萌港・網走港・紋別港・十勝港】

3

西暦	年号	根室港の歩み	稚内港の歩み	留萌港の歩み	網走港の歩み	紋別港の歩み	十勝港（広尾港）の歩み
1877	明治10	2.19 根室支庁、新開の漁場・昆布場以外の営業出願を停止○ 6.26 根室支庁、漁場・昆布場の転貸を禁止○ 8.11 北海道諸産物出港税則並各港船改所規則を改正し、根室に船改派出所を設置○			6.- 藤野伊兵衛が自費で網走郡藻琴川に架橋※1		この年、開拓使は海難防止のため、日本型船の検査を実施、超過貨物を没収※6
1878	明治11	9.- 三菱会社、補助金を受け函館～根室間の定期航路開設◆		9.- 開拓使留萌測候所が設置(明治13年廃止)▼			この年、三菱会社は函館～根室間(広尾・大津寄港)に定期航路を開設※6
1879	明治12	7.1 根室に測候所を設置、観象を開始する◆					
1880	明治13	6.- 開拓使、根室に西洋型船製造所を設置◆					
1881	明治14						
1882	明治15	2.8 開拓使を廃止、根室県を置く◆		4.- 留萌川に渡船場を設置▼			この年、依田勉三ら晩成社を設立※6
1883	明治16		この年、軍艦明治丸宗谷灯台用地を選定■				
1884	明治17	この年、共同運輸会社、根室～網走間の航海を開始◆					この年、広尾の漁船、3間以上130隻※6
1885	明治18	8.- 花咲港に延長45間(81m)、幅員5間9m)、工費2,900円の波止場を築設◆ 10.1 日本郵船会社、根室に出張所を置く◆ この年、日本郵船による函館～根室間、根室～網走間に命令航路開通○	9.25 宗谷灯台設置、測候所設置口 この年、日本郵船が政府指定航路として小樽～利尻、礼文、稚内の航路を開設◎ 当時の人口 和人28戸			この年、紋別郡鮭漁業組合が設立★	この年、広尾の漁家89戸、兼業14戸を数える※6
1886	明治19	この年、根室外四郡水産組合が設立。根室港に延長50間(90m)、幅8間(14.4m)、工費6,980円の波止場を築設◆	この年、稚内港に初めて小蒸気船入港。稚内に移住者激増、街の形態をつくる口			この年、紋別魚粕製造組合が設立★	6.- 昆布製造改良組合を設け、昆布の検査を行い品質の向上を図る※5
1887	明治20	この年、英国人技師C・S・メイクが根室港を調査する○		1.- 留萌漁業組合が設立▼ 8.- 英国人技師C・S・メイクが留萌港を調査する▼	この年、釧路監獄署により釧路～網走間の道路開削に着手*		この年、英国人技師C・S・メイクが港を調査。広尾・当緑・十勝各郡の和人が十勝漁業組合を設立※6
1888	明治21		この年、道庁技師三上源蔵、初めて稚内港の水深調査をする口		6.11 英国人技師C・S・メイクが北見国入りし網走港修築を調査する*	この年、紋別水産組合が設立★	この年、広尾漁業組合設立を認可。函館・十勝・釧路の商人と漁業家で釧路十勝共同汽船会社を設立※6
1889	明治22			7.- 定期航路船の樺戸丸、飛竜丸がはじめて留萌港に入港する▼	5.14 網走・常呂二郡水産漁業組合が創立* 6.29 空知監獄署囚人による忠別太～網走間(北見道路)仮道路の開削起工(8月30日竣工) この年、藤野家、汽船芳野丸を購入し、函館・根室・網走間の定期航海を行う*		
1890	明治23	10.15 落石岬灯台(二等)落成点灯する○ 11.1 花咲灯台、落成点灯する○	この年、稚内埋立地事件発生口	この年、工学博士廣井勇が留萌港の港湾調査を行う▼	11.- 川湯硫黄山～網走間の道路(釧路道路)完成*		この年、北海道庁港湾技師廣井勇が広尾港を調査※6
1891	明治24	2.6 根室港の有志者、町会所に会して北海道議会議開設請願の事を議し、委員10人を選挙する○		12.- 第2回帝国議事に留萌築港を請願する▼	4.- 囚徒外役所による網走～上川間の道路(中央道路)開削着工(同年末に完成)*		
1892	明治25	2.26 日本郵船「播磨丸」花咲港より初めて千島冬季航海を試み、安全を発表する◆		1.- 留萌築港請願事務所を設立、本格的な築港運動が始まる▼			この年、幌泉～広尾間の道路が開通※6
1893	明治26	4.1 日本銀行、札幌・函館・根室・室蘭に出張所を開設★					この年、浦河汽船会社が設立※6
1894	明治27						

3. 北海道の港町の歩み【根室港・稚内港・留萌港・網走港・紋別港・十勝港】

西暦	年号	根室港の歩み	稚内港の歩み	留萌港の歩み	網走港の歩み	紋別港の歩み	十勝港（広尾港）の歩み
1895	明治28	7.10 日本銀行、函館出張所を北海道支店、根室出張所を同支店の派出所とする★ 11.- 陸地測量部、花咲に検潮所を設け潮汐観測事業を開始					
1896	明治29		10.1 稚内郵便局、船舶通報事務開始口		6.15 工学博士廣井勇が網走港修築調査に着手。11月に完了し「網走築港調査図」作成*		この年、三陸沖地震による津波で広尾港でも民家、漁船に被害多発。帯広～広尾間の広尾街道が着工※6
1897	明治30		6.- 官設鉄道の十勝線(旭川～帯広間)・天塩線(旭川～宗谷間)工事に旭川方面より着工	6.- 海軍水路部が留萌沿岸を測量▼	11.5 郡役所を廃し、北海道庁網走支庁など19支庁設置*		4.- 道庁補助航路となる函館～十勝(大津)間を開設する◇ 6.- 官設鉄道の十勝線(旭川～帯広間)・天塩線(旭川～宗谷間)工事に旭川方面より着工
1898	明治31	3.1 根室銀行が設立◆ 11.- 日本郵船会社が函館～釧路間、根室～網走～南千島間の命令航路を開設する▲			11.- 日本郵船会社が函館～釧路間、根室～網走～南千島間の命令航路を開設する▲ 12.- 貴田国平、単身上京して網走港修築を国会に請願		6.- 広尾～帯広間の道路開削※5 この年、茂寄(広尾)港入港船舶と貨物(汽船)隻数353隻、貨物量51,013トンとなる※6
1899	明治32				4.- 小樽～網走間に道庁補助定期航路が開設* 7.14 廣井勇「網走港湾設計報文(改補)」上申* 10.6 網走築港期成会が結成し、築港・鉄道の速成を上京運動* 12.28 貴田国平「網走港」発刊*		この年、北海道庁が広尾港の実測調査を行う※6
1900	明治33	6.- 柳田藤吉が単独で本町に海岸埋立工事「柳田埋立地」を竣工(8,020坪、間口100間(180m)、左奥行80間(144m)、右奥行70間(126m))◆ 9.- 逓信省命令、日本郵船受令の函館・根室線、根室・網走線、根室・沙那線を道庁命令航路として継続する◆ 12.26 千島冬季定期補助航海を開始し、日本郵船「播磨丸」第1回定航につく◆	12.10 稚内灯台設置口	9.- 留萌築港鉄道期成同盟会発足▼ 12.- 留萌築港と鉄道敷設を再度帝国議院に請願する▼ この年、道庁技師内田富吉が留萌港の港湾調査を行い、築港修築を立案(～明治34年)▼	1.11 網走築港期成会、廣井勇著「網走港修築意見書」発刊* 10.- 網走～根室間に道庁命令定期航路が開設* 12.- 北海道拓殖10年計画国会で可決(明治34年4月施行、網走・常呂・湧別各河川の治水事業費は計上されたが、築港事業費は削除)*	この年、網走～稚内間を結ぶ紋別～渚滑間仮定県道(北海岸線)が完成し、紋別港までの主要道路が貫通する※2	5.- 官設鉄道釧路線(帯広～釧路間)工事を釧路方面より着工▲ 8.- 広尾港の修築、日勝鉄道の敷設を政府に請願※5
1901	明治34		5.- 道庁補助航路、稚内～網走線が運航開始★	この年、留萌～妹背牛間の道路が開通▽	5.- 道庁補助航路、稚内～網走線が運航開始★ 10.- 小樽～網走間の道庁補助定期航路を稚内～網走間に分割*	この年、全道沿岸航路の連絡網が完成し、稚内～網走定期航路が紋別に寄港する(夏季だけの定期入港)※2	この年、広尾港補足調査が行われる※6
1902	明治35			6.- 留萌～北竜間の道路が開通▼ この年、道庁技師伊藤長市(後の初代留萌築港事務所長・伊藤長右衛門)が留萌港の再調査を行う(～明治36年)▽		この年、漁場持の藤野以外の漁業者、水産物製造者が増え(専業73戸475名・兼業39戸213名)、漁船も482隻を数える※2	この年、函館の金森汽船合名会社が広尾で海運業務を始める。広尾港補足調査が行われる。北海道移住民上陸地(明治30年～)小樽・函館・室蘭・釧路・大津・広尾の6港、十勝への移住好調に進む※6
1903	明治36						この年、広尾水産組合が設立※6
1904	明治37					この年、紋別～名寄間の道路開通★	
1905	明治38						10.21 北海道官設鉄道利別～帯広間が営業開始。これにより釧路線の釧路～帯広間が全通▲
1906	明治39		この年、小樽、稚内、樺太定期航路開設★、北海道銀行稚内支店が設置■	この年、工学博士廣井勇が帝国議院において留萌築港修築について演説を行う▽			

3. 北海道の港町の歩み【根室港・稚内港・留萌港・網走港・紋別港・十勝港】

西暦	年号	根室港の歩み	稚内港の歩み	留萌港の歩み	網走港の歩み	紋別港の歩み	十勝港（広尾港）の歩み
1907	明治40	この年、根室の漁業家西村彦右衛門ら、北千島の調査と試験操業を実施★、道庁命令航路、釧路根室近海線を開始する○		2.- 国有鉄道留萌線（深川～留萌間）工事起工 4.- 留萌漁業組合が設立▼ この年、道庁技師関谷忠正が留萌港の築港計画修正のため調査を行う（～明治41年画）▽	3.- 国有鉄道網走線（池田～網走間）工事に池田～本別間より着工	この年、紋別外1カ村漁業組合設立★	9.8 国有鉄道落合～帯広間、営業開始。十勝線が全通し釧路線と接続、旭川～釧路間を釧路線に改称 この年、大阪新田帯草（株）新田長次郎が十勝の柏樹皮（タンニン原料）買受所を設け、広尾海岸から積み出す※6
1908	明治41	この年、定期補助航路が開始され、地方開発が進むにつれ、入港船および取扱量も増大する○		6.- 町制施行で留萌町となる▼			
1909	明治42		7.15 宗谷漁業組合、宗谷水産組合設立■ この年、道庁技師野口秀一、稚内港精査実測口		この年、大字網走村大曲～呼人間の湖崖道路開削工事に着手*		
1910	明治43		この年、北海道水産試験所稚内駐在所設置■、稚内港、道庁港湾費で修築口	2.- 留萌港築港予算、第26回帝国議会で決される▼ 4.- 留萌築港事務所が開設、留萌港修築工事が着工▼ 11.23 国有鉄道留萌線（深川～留萌間）全通、営業開始	3.10 北海道15年経営案（第1期拓殖計画）議決、網走港288万円で修築決定*	この年、北海道庁港湾課技手岡田久楠が紋別湾を再調査する※4	この年、十勝新聞社が設立※6
1911	明治44	1.- 根室缶詰株式会社が創業◆ 5.31 根室開港場に指定◆ 6.1 根室港開港し、根室税関支署が開庁。輸出は水産物に限定◆		この年、留萌港南防波堤の築堤に着手▽			この年、茂寄村会「広尾港防波堤築設費」4万円を計上する。三井物産（株）広尾に出張所を開設し、枕木を積み出す。十勝産雑穀の作付面積5万町歩に増え、広尾・大津港から積み出す。函館～釧路間に直通列車が開通し、入植者移住が相次ぐ※6
1912	明治45/大正元	3.13 根室漁業組合が設立◆		10.- 留萌海陸連絡（株）が創立▼	5.16 網走漁業会設立* 10.5 国有鉄道野付牛～網走間、営業開始。これにより網走線（池田～網走間）が全通		この年、広尾港築設に地方費1万5,000円の補助が付き、工費6万円で着工※6
1913	大正2	4.- 根室船材株式会社創立◆			5.- 保原元二「網走港修築補測調査報文」提出（大正3年から事前調査に着手）*		この年、東海宇平海山合資会社が設立、沿岸漁業にはじめて動力船を使用※6
1914	大正3	この年、根室線鉄道が着工☆、根室に測候所を設置○		9.- 増毛支庁を留萌に移し、留萌支庁と改称▼ この年、留萌築港事務所および築港工場が完成	6.26 東条貞「網走築港調査書」発刊* この年、第一期拓殖計画により避難港として修築◎	この年、紋別港避難港築設の請願、両院で採択される※4	6.1 広尾橋竣工（同月14日の大雨で流失）※5 この年、尼ヶ崎汽船が広尾港に就航。北海道10カ年計画に基づき広尾港の地形、深淺、潮流の測量が開始※6
1915	大正4				この年、網走電気株式会社が創立し、網走に初めて電気が通る、沿岸漁業に動力船が導入*		この年、漁船の遭難が相次ぐ、崖が崩れ、橋や道路に被害※6
1916	大正5	4.25 北海道水産試験場支場を室蘭・釧路・根室・宗谷に設置◆ この年、根室にはじめて貨物自動車が入る○		4.- 築港計画を変更（工期の1カ年延長と外港の縮小）▼	10.- 網走港修築計画更訂、避難港に縮小* 12.- 北見国沿岸一帯、高波のため漁業など被害甚大* この年、第一期拓殖計画により避難港として修築◎		
1917	大正6		7.14 稚内港の修築、道庁財政の関係で他日に譲る■	この年、留萌川切替、新水路掘削に着手▽	10.1 能取岬灯台完成し、初照射*		9.- 広尾漁業組合設立※5
1918	大正7	11.25 輸出高100万円達成し祝賀会を開催（入場者約1,000人）◆					
1919	大正8	11.- 根室線、厚岸～厚床間が開通▲ この年、柳田鉄三が自費で石垣護岸を修復○	この年、道庁技師伊藤長右衛門、稚内港を調査設計口	この年、留萌港防砂堤本工事が起工▽	3.18 網走港修築予算確定* 4.- 網走築港事務所開設（大正9年、所長平尾俊雄着任）* 8.13 網走港修築工事起工式および祝賀会挙行* この年、網走港修築工事に着工*	この年、紋別村から紋別町と改称★。紋別築港期成会結成※4	7.- 広尾汽船（株）が設立※5

3. 北海道の港町の歩み【根室港・稚内港・留萌港・網走港・紋別港・十勝港】

西暦	年号	根室港の歩み	稚内港の歩み	留萌港の歩み	網走港の歩み	紋別港の歩み	十勝港（広尾港）の歩み
1920	大正9	7.5 根室港湾修築期成同盟を設立◆ 10.- 根室港修築工事に着工◆	2.12 稚内築港原案、衆議院において可決. この年、稚内港修築工事に着工(大型貨客船対応施設の工事に着手◎、国費6,030万円.)埋立に利尻砕石、裏山土石を使用□	4.- 築港計画を変更(工期の4カ年延長と内港の拡張)▼ この年、留萌港北防波堤築設工事を起工▽	10.1 第1回国勢調査(網走町5,329世帯、人口2万7,899名)*		この年、広尾港に共同船揚場を建設、利用者は漁業組合員350名※6
1921	大正10	8.5 国有鉄道西和田～根室間、営業開始、根室線が全通。これにより函館と根室を結ぶ本道横断路線が完成(根室駅開業◆) 8.6 根室築港起工式及び祝賀会開催◆	6.23 稚内築港に内務大臣床次竹二郎刻字基石設置■ 9.23 稚内築港起工式祝賀会開催. この年、稚内港北堤修築工事に着工	11.5 国有鉄道増毛線(開業線名、留萌線)留萌～増毛間が全通 この年、留萌港防砂堤、方塊据付が完了し、予定の堤長を築設▽		10.5 国有鉄道興部～上興間が開通、名寄線名寄～中湧別間が全通 11.- 漁港と避難港を兼ねた整備を目指し、漂砂流入と波浪の影響を探る試験用突堤(長さ136m)を築設(後の北防波堤で紋別港湾整備の起点)※2	この年、広尾港に角材積取り船が相次ぎ入港。広尾港の測量調査のため北海道庁港湾課長が来村※6
1922	大正11		1.- 宗谷海峡一帯結氷、船舶航行不能□ 11.1 国有鉄道鬼志別～稚内(のちの南稚内)間が開通。これにより宗谷本線(浜頓別経由)が全通し、北海道を鉄道が縦断 この年、宗谷線(現天北線)開通.	この年、留萌港導流堤築設に着手。小樽～留萌港へケーソンを海上曳航。留萌港港内浚渫を開始▽		この年、道庁港湾課長伊藤長右衛門によって、紋別港整備計画立案※4、ホタテ漁船の大海難事故発生★	
1923	大正12	11.1 根室銀行が安田銀行に合併○	5.1 国有鉄道稚泊連絡船(稚内～大泊間)が運行開始、沓岐丸、対馬丸就航□ 8.5 軍艦春日、稚内港に入港口	この年、留萌川切替全工程が完了し、通水する。留萌港内港築設工事で掘削および浚渫を開始。小樽～留萌港へケーソンを海上曳航。町営事業の副港造設、留萌川切替工事が完了▽		この年、紋別港修築工事(5カ年継続事業)に着工★、南防波堤と船入澗、北防波堤の建設、浚渫、埋築に着工(昭和5年完成)※2	この年、北海道庁長官、広尾港を視察し、広尾港外で座礁の川崎汽船「鹿山丸」を眺望※6
1924	大正13	この年、根室鮭鱒養殖水産組合が設置◆	この年、北日本汽船会社稚内出張所設置、稚斗連絡航路開始(稚内～本斗間)□、北海道拓殖銀行稚内支店設置、北海道水産会宗谷支部設置■、北見線(現宗谷線)開通. 当時の戸数3,219戸、人口1万7,157人.		11.15 釧網線の網走～北浜間が開通*	この年、紋別港北防波堤護岸工事に着工※4、タラバガニ缶詰工場が創設。沖合漁業が盛んとなり、カマボコ、チクワ類の製造が行なわれる★	この年、広尾港修築建議案を衆議院に提案し採択される※5
1925	大正14	この年、根室港修築第1期工事が竣工○	この年、摂政宮裕仁親王殿下が稚内に御寄港■		11.10 釧網線の網走～斜里間開通*		この年、前大蔵大臣一行が広尾港を視察。広尾線の実測調査開始※6
1926	大正15/昭和元	2.13 根室汽船(株)創立◆ 3.17 日本郵船が上海航路(根室～函館～上海)を開設、根室から入港した第1船竹島丸(2,700トン)函館から上海に向けて出港する◇ この年、柳田埋立地護岸工事102mが完成する○	この年、築港船入澗(現第三副港)完成、鉄道船入澗(後に埋立中央ふ頭)未完、稚泊連絡船対馬丸ノシャップ沖で沈没. 第一期拓殖計画(明治43年～昭和元年)終わる。進捗率40%□ 当時の戸数3,306戸、人口1万8,183人.		3.6 網走信用組合設立*	この年、紋別港北防波護岸が完成※4、政府の動力漁船建造奨励を受け動力船付漁船は44隻となり、沿岸漁業だけでなく遠洋漁業の動力船も36隻を数えた※2	6.1 村名を茂寄村から広尾村に改称※5 この年、北海道庁が音調津(おしらべつ)船入澗の測量を開始※6
1927	昭和2	10.- 第2期北海道拓殖計画が採択され根室港の泊地浚渫工事を着工◆		この年、留萌～増毛間に鉄道が開通▽	12.- 網走川に新橋が架橋*	この年、紋別港北防波工事に着工※4	この年、広尾港の整備が第2期北海道拓殖計画に取り上げられる。日勝連絡道路(黄金道路)33kmを起工※5
1928	昭和3		12.26 稚内港駅(現稚内駅)開駅. この年、帝国議会で稚内、利礼定期連絡航路開始建議案可決□	8.- 留萌鉄道(株)が創立(12月留萌海陸連絡(株)を合併)▼ この年、留萌～鬼鹿間の鉄道が開通▽	6.14 網走川河口部および網走橋下流部右岸の護岸・浚渫・埋立工事を町営で着工(昭和4年完成)*		
1929	昭和4	この年、根室拓殖軌道(株)により函館～根室を結ぶ軌道が開通○	2.- 稚内港第一期計画事業船入澗が竣工□ この年、帝国議会で稚内、利礼定期連絡航路開始建議案可決□	この年、留萌港南防波堤竣工。内港岸壁工事に着手。		この年、紋別町開発期成同盟設立★	この年、広尾港事務所が開設し、初代所長今野彦策による南防波堤工事が開始(広尾港修築工事に着手◎)※6
1930	昭和5	この年、根室港西防波堤延長工事を着工(～昭和16年)○	この年、稚内港埋立地に海軍燃油タンク造設■	この年、留萌港防砂堤・導流堤・東突堤・西突堤竣工▽	3.- 網走築港工事竣工*	この年、紋別港北防波が完成、第1船入澗が完了、築港事務所が焼失※4	この年、内務省は広尾港を指定港に編入。広尾港築設で初のケーソン7基が完成※5
1931	昭和6	8.24 リンドバークが飛行機シリウス号で根室港に着水◆ この年、失業対策事業として海岸町船入澗を築設(～昭和27年)○	この年、第五十九回帝国議会、稚内基点の利礼三角航路開始決議案を可決□	12.- 留萌鉄道(株)が南岸棧橋を建造▼ この年、留萌港北防波堤が完成▽	9.20 釧網線全通*	この年、紋別築港、埋立地等一切完成する※4、鉄筋コンクリート造りの北防波堤灯台が建設、点灯※2	6.- 広尾港浚渫のため、初めて浚渫船が回航※5

3. 北海道の港町の歩み【根室港・稚内港・留萌港・網走港・紋別港・十勝港】

西暦	年号	根室港の歩み	稚内港の歩み	留萌港の歩み	網走港の歩み	紋別港の歩み	十勝港（広尾港）の歩み
1932	昭和7	この年、弥生町船入澗の波除堤207m延長工事を施工（～昭和8年）○	12.22 宗谷丸稚泊航路に就航■	3.- 留萌港南防波堤に紅、北防波堤に白の灯台が完成、初点灯▼ 9.- 留萌～羽幌間に鉄道が開通▼ 12.- 留萌鉄道（株）が北岸壁の臨港線を設置 この年、留萌港内港南岸、北岸が護岸とともに完成。留萌鉄道（株）が南北岸壁に臨港鉄道と高架棧橋、石炭積込機（ローダー）を整備▼	10.1 石北線全通*		この年、佐上北海道庁長官一行が来村し、広尾港修築工事と音調津漁港を視察。広尾港船入澗東堤建設が開始※6
1933	昭和8	10.- 大阪商船が根室～大連間航路を開設◆	この年、町営船入澗（後に埋立、第二副港物揚場第二副港物揚場）完成（昭和3～8年）∴	3.- 留萌港築港工事を終え、留萌港が完成▼ 8.- 留萌港竣工記念祝賀会が開催▼ この年、留萌港事務所が閉鎖され、翌年から小樽築港事務所の所管となる▼			この年、三上鉄道大臣一行が汽船「東郷丸」で来港、広尾港、音調津漁港を視察※6
1934	昭和9		この年、第六十五回帝国議会、小樽、稚内間定期命令航路建議案可決、稚内港基点利礼三角航路開始決定口、宗谷水産加工組合設立■	この年、留萌港維持浚渫を着工▼	5.- 網走橋架け替え（管内初の永久橋）*		この年、日勝連絡道路（黄金道路）全線開通★
1935	昭和10	この年の根室町の戸数3,822戸、人口2万319名◆	この年、稚内～鷺泊～香深三角航路開始∴	この年、留萌港内港護岸工事を着工▼		この年、紋別漁業協同組合が発足★	10.- 国勢調査で広尾町の戸数1,464戸、人口7,924名※5
1936	昭和11	11.15 小型船用船入換澗築設工事を竣工○	この年、稚泊連絡船の接岸施設として、稚内港北防波堤（第一期570m・第二期884m∴）ドーム（北防波護岸庇424m∴）竣工、稚内～利尻・礼文島間に稚内利礼運輸（現在の東日本海フェリー）がフェリー航路を開設○、宗谷港築港工事に着手、稚内築港工事第一期完成∴、宗谷炭礦汽船会社、天北炭田発掘に着手口	2.- 留萌港が国際貿易港に指定▼ 2.- 函館税関留萌支署開設▼ 5.- 留萌港利用調査会が開催▼	10.10 湧網東線（網走～常呂間）開通* 10.17 湧網西線（中湧別～中佐呂間）開通*		4.- 広尾漁業組合が協同組合と改編※5
1937	昭和12	8.1 根室港北防波堤に鉄製の灯柱が設置◆ この年、海上出入貨物量が44万6,000トンに達する○	1.2 稚内測候所設置口 この年、稚斗連絡船鈴谷丸、樺太丸と交代◆ 当時の戸数3,672戸、人口1万9,449人∴	この年、日中戦争により港の石炭移出が増加▼			
1938	昭和13	この年、第2期北海道拓殖計画により、根室港の副港として花咲港修築事業が開始され、船入澗仮設工事に着工○	この年、稚内港第一副港工事に着手∴、鉄道船入澗完成∴				
1939	昭和14	この年、北洋のサケマス、2億2,000万尾の豊漁を記録◆、輸出額が1,588万1,000円に達し、開港以来最高額に○	2.1 港駅を稚内駅、稚内駅を南稚内駅に改称◆ 5.26 稚内港湯島丸函館港に転属◆ この年、稚内第二副港着工（昭和14～17年）、戦争激化のため昭和17年で中断、石炭積出用に（日曹鉱業施工後に稚内市が引き継ぐ）∴	5.- 天塩炭礦鉄道（株）が創立▼ この年、留萌港が留萌土木現業所の所管となる。	この年、7～8月の豪雨で被害甚大となり、網走川網走橋下流右岸中間部のコンクリート護岸工事施工（昭和15年完成）、さらに網走川網走橋上流右岸の護岸および治水工事着工（昭和16年までに一部完成）*		
1940	昭和15	この年の根室町の戸数4,315戸、人口2万2,010名◆	この年、港湾取扱貨物量14万トンに達する∴				
1941	昭和16	この年、根室港西防波堤延長工事が完了○	9.11 稚内運輸事務所、稚内鉄道管理局と改称◆	この年、留萌港浚渫費の2分の1を港湾関係業者が負担し、浚渫が行われる▼		この年、紋別港北防波堤灯台が完成※4	
1942	昭和17		12.16 天北石炭礦業会社創立、採炭本格的に開始◆ この年、漁業無線局が設置■、稚内港浚渫工事に着手◆	この年、留萌港浚渫・導流堤補修工事を実施、天塩炭礦鉄道（株）が留萌～達布間の鉄道を開通▼			
1943	昭和18	この年、根室港北防波堤完成（泊地浚渫工事が完了）◆第2期北海道拓殖事業による花咲港の修築事業が完成。根室港の副港として利用される○		この年、留萌港南防波堤補修工事を実施（～昭和21年）▼	11.- 東日本造船網走工場で戦時標準型木造輸送船建造*		
1944	昭和19	この年、紅煙繫船（琴平町係船）護岸工事に着工（冬期に工事が実施）○		この年、留萌港に浚渫船大正丸が入る▼			この年、広尾港第1期修築工事、竣工。広尾港に軍艦徴用船が相次いで入港※6

3. 北海道の港町の歩み【根室港・稚内港・留萌港・網走港・紋別港・十勝港】

西暦	年号	根室港の歩み	稚内港の歩み	留萌港の歩み	網走港の歩み	紋別港の歩み	十勝港（広尾港）の歩み
1945	昭和20	5.29 根室港北防波堤灯台点灯◆ 6.- 紅煙艇船(琴平町係船)護岸工事が竣工○	8.9 元稚泊連絡船垂庭丸、茂浦沖で空襲を受け沈没■ 8.16 緊急樺太引揚船、相次いで稚内港入港◆ 11.29 稚泊連絡船宗谷丸、函館に回航■	8.- 留萌沖で樺太引揚船3隻が撃沈▼	11.1 網走町の人口3万5,465名※2		10.- 有限会社広尾造船所が設立※5 この年、東北地方の底曳漁船が道東海域に入会、広尾港が基地となる※6
1946	昭和21				10.15 網走町振興促進会結成(翌年、網走市振興促進会となる)*	この年、港まつりが復活★、紋別漁業会が水産物共同加工場を改築し冷凍事業を開始※2	この年、町政施行により広尾町となる、日本水産(株)が広尾港に捕鯨基地を建設。また、広尾港に製塩工場が建設される※6
1947	昭和22	この年、根室港のケーソンヤードを花咲港へ移設。花咲港西防波堤および浚渫工事を着工○		10.1 市制施行で留萌市となる▽ この年、留萌土木現業所・留萌築港工場事務所が新設。留萌港内浚渫を着工。留萌港南防波堤災害復旧工事を着工▽	2.11 網走市制施行* 4.22 網走冷蔵(株)が設立* 8.3 網走港改修期成会結成* 8.27 網走漁業会で市民に第1回のサケ配給* 10.1 臨時国勢調査(網走市6,173世帯、人口3万4,850名)※2 11.30 網走沿岸サケ大漁、市の漁獲高26万貫(約975トン)突破*	この年、戦後の港湾拡張計画により紋別港第2船入洞工事に着工※2、ケーソン斜路を造成※4	
1948	昭和23	この年、港湾調査規則により、根室港は乙種港湾に指定。花咲港は既設船入洞の拡張工事に着工○	この年、関税法に基づく港湾稚内港国際開港場に指定。:	7.- 第1回留萌港利用経済会議開催▼ 8.- 留萌・函館・大阪・博多を結ぶ裏日本定期航路が開設▼ この年、築港工場が新たに大町に建設。留萌港南防波堤災害復旧工事を実施。小樽海上保安部留萌海上保安署が設置▽	4.24 北大理学部稲富教授ら、網走沖で学界初の流水観測を実施* 8.7 第1回網走観光港まつり開催* 8.12 網走港修築工事起工式* 12.- 網走港からの種バレイシヨ海上輸送8万5,782俵(約5,147トン)* この年、港則法制定に基づく港域指定◎	この年、港則法制定に基づく港域指定◎、紋別港の第3期拡張工事が着工★、隣火により築港事務所が焼失※4	この年、広尾海運(株)海運業務を開始※6
1949	昭和24	4.26 根室漁業会を解散し、根室漁業協同組合を設立◆ この年、花咲港西・南防波堤の復旧工事を進行(～昭和26年)○	この年、稚内市制施行■ 当時の戸数6,073戸、人口3万3,181人。:	この年、留萌港内浚渫を実施。留萌港南防波堤・南岸埋立護岸災害復旧工事を実施。築港工場にケーソンヤード施設が完成▽	5.28 網走漁業協同組合創立* 6.3 網走地方水産加工業協同組合設立* 7.21 西網走漁協協同組合が設立★ 12.25 網走港補修工事事務所落成*	この年、紋別漁業用短波海岸局が開局★、紋別港修築事業所新築(再建)※4	この年、広尾航路標識事務所が開設。広尾港内で浚渫作業が開始※6、広尾町漁業協同組合が設立★
1950	昭和25	この年、冬季風浪20号災害により係留施設236m、埋立護岸48mが破壊される(昭和27年に復旧工事)。花咲港は荷揚場護岸の復旧工事(～昭和26年)、船揚場護岸、浚渫復旧工事(～昭和27年)を行う○	この年、港湾法に基づく地域港湾の指定◎(道内36港直轄港湾となる。):	この年、留萌港南防波堤・南岸埋立護岸・北護岸災害復旧工事を実施▽	1.23 網走機船底引網漁業協同組合設立* 8.5 道水試網走支場・道水産研究所網走支所の開庁式挙行* 10.1 国勢調査(網走市6,734世帯、人口3万9,248名)*	5.31 港湾法制定により地方港湾となる※4	
1951	昭和26	この年、花咲港西防波堤の復旧工事を進行○	12.17 稚内港修築事業所を設置。:	この年、留萌開発建設部および留萌港修築事業所が設置。留萌港修築事業所が大町の工場構内に移転。留萌港南岸壁改良工事を実施。航路浚渫を実施。留萌港南防波堤・南岸埋立護岸・北護岸・北防波堤・導流堤災害復旧工事を実施。留萌港副港の一部を埋立▽、港湾運送事業法の適用を受ける◎	1.8 網走漁業生産組合設立* 3.3 網走市沿岸漁業生産組合設立* 6.9 網走海上警備救難署配属船「さふらん丸」入港* 6.22 網走海産商業協同組合設立* 7.1 網走土木現業所から網走開発建設部を分離*	この年、紋別港第2船入洞南防波堤が完成※4、道立水産試験所紋別分場が設置★	4.- 広尾港が港湾法に基づき、避難港の指定を受ける※6

【参考文献】

「北海道みなとまちの歴史 廣井勇が育んだ北の日本近代築港」著者：関口信一郎／発行：亜璃西社／発行日：令和3年(2021)2月12日
 ◆「根室市史 年表」発行：根室市／発行日：昭和63年(1988)3月20日 ○「根室港建設史」発行：釧路開発建設部／発行日：平成17年(2005)3月
 ・「稚内市史」発行：稚内市／発行日：昭和43年(1968)12月20日 ■「稚内百年史」発行：稚内市百年史編さん委員会／発行日：昭和53年(1978)10月30日 □「稚内港の変遷」発行：稚内港湾建設事務所／発行日：昭和62年(1987)3月
 ▼「新留萌市史 資料編」発行：留萌市／発行日：平成15年(2003)3月31日 ▽「黎明の留萌港」発行：留萌港湾建設事務所／発行日：平成13年(2001)3月
 *「網走市史 年表」発行：網走市 企画総務部 総務課／発行日：平成20年(2008)3月 ※1「網走市史 上巻」発行：網走市役所／発行日：昭和33年(1958)5月
 ※2「新修紋別市史」発行：紋別市／発行日：平成19年(2007)3月31日 ※3「紋別百科事典」発行：紋別百科事典編纂委員会／発行日：平成17年(2005)3月31日 ※4「オホーツクの港もんべつ」発行：(株)オホーツク設計／発行日：平成3年(1991)2月
 ※5「新広尾町史 第三巻」発行：広尾町役場／発行日：昭和57年(1982)9月20日 ※6「十勝港建設史」発行：帯広開発建設部／発行日：平成18年(2006)3月
 ※8「新北海道史 第九巻史料三」発行：北海道／発行日：昭和55年(1980)11月30日
 ★小樽市・函館市・室蘭市・釧路市・根室市・稚内市・留萌市・網走市・紋別市・広尾町の各HP
 ◎国土交通省北海道開発局HP(港湾・空港→北海道のみならず各みなとの紹介) https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/kk/kou_kei/ud49g7000000kikg.html